

サークル・アクメハゲ
作者・ジョー長谷川

全30ページ

インテリ爆乳妻が
巨根ショタチンポ
に墮とされる話

アルノマリヤ族
未だ謎に満ちた部族の名前です
彼らは近代的な生活を避け
二万年前から続く
独自の文化を守り
一般的なメディアはおろか
世界の民族学会ですら
情報は掴めていないのです



最果ての密林に姿を隠し
研究学者が来る都度
部族の長がよそ者を
追い返すのです

私の夫である民族研究者の国枝壮一も
同様に追い出された内の一人でした



今回は助手兼妻である私が
夫に代わって村長との交渉に来た
というのが今回の話のあらましです

押しの弱い夫の事だから
伴侶である私がサポートしなくては

第一、最初から私を
連れてくるべきだったのよ

なんで研究所に
私を残して行ったのよ

いやあ、男としての
プライドがあるからなあ

いつもお前ばかりに
無茶させてはなんだと
思ったんだがね……

もっつー二度手間なんだから
とにかく私が上手くやるわ



数時間後
村の門の前にて

懲りずに来おったな……
ふむ、今度は女連れか……

国枝壮一の助手兼妻の
国枝道子と申します
今回は村長さんが納得出来る
お話を持ってきましたので……

話はいいい！
ちよいとお前さん
荷物と帽子を外して
体を見せてくれるかの

くるっと体を回してみい

へっ？
一周体を
回せばいいのですか？

そっじゃ
早くせい

あのっ

ふうる
ふうる

特に凶器や隠しカメラ等は
所持してはいないのですが

ど
ち
が

ボディ



これならアイツも満足するじゃろう

良からう

今回は特別に村を見せてやる荷物はこちりで預からう

まあ！本当ですか？

有難うございます！ご協力感謝します！



村の中でそちらの言葉が使えるのはワシだけでの

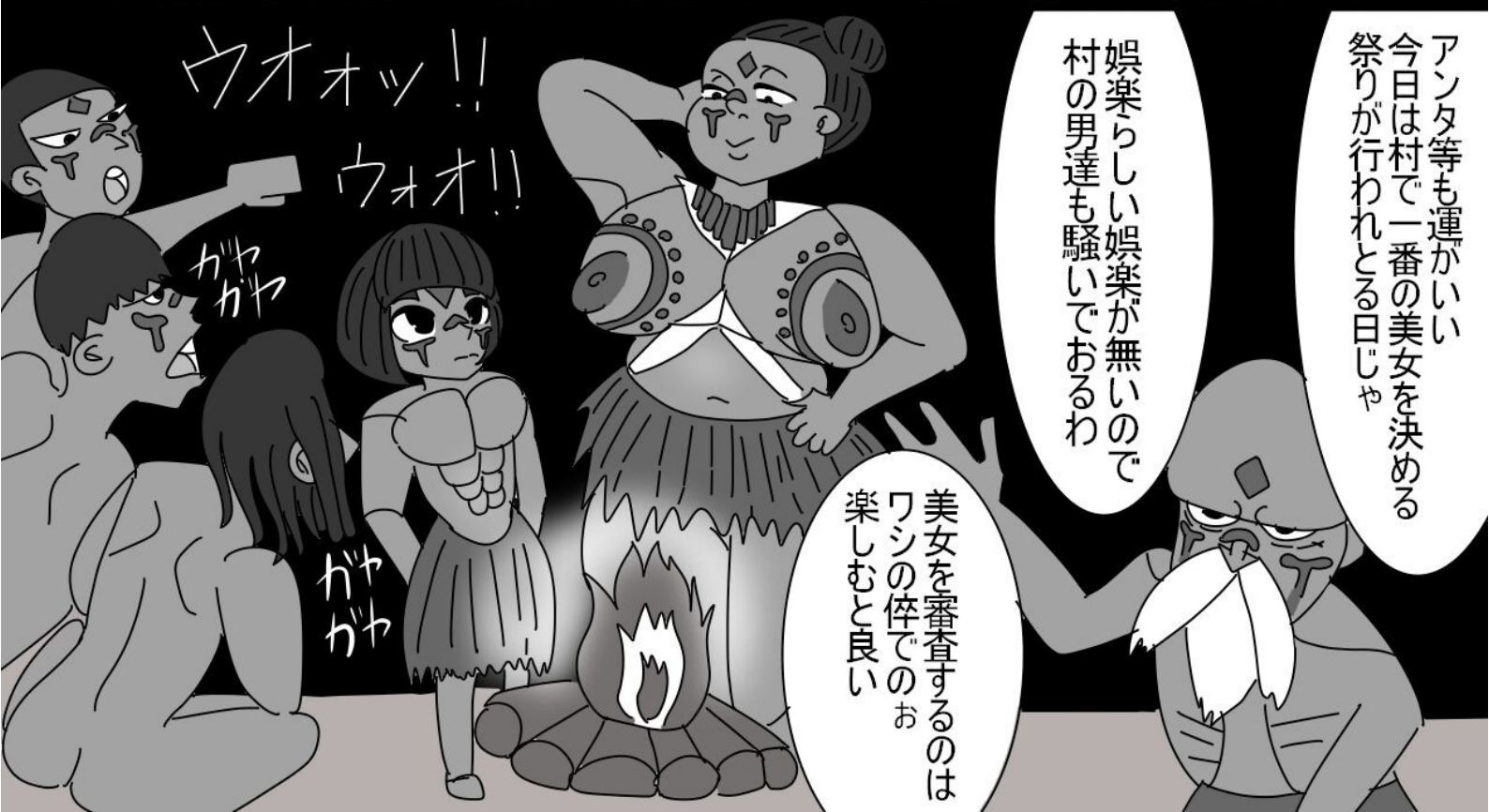
案内はワシがしよう



秘境の部族と言ってもスケベなお爺さんはどこにでもいるものね！

うーん

今まで取材を拒否してきた部族なんだけれどなああっさり色仕掛けで通るなんて……



アンタ等も運がいい今日は村で一番の美女を決める祭りが行われとる日じゃ

娯楽らしい娯楽が無いので村の男達も騒いでおるわ

美女を審査するのはワシの倅でのお楽しむと良い

ウオオッ!! ウオオ!!

かや かや

かや かや

優勝者には賞品でも
与えられるんですか？

優勝者しか
入れない
貴重な遺跡に
招待するのじゃ

久しく優勝者が
出んでのお
ワシの倅の審査が
厳しいのじゃ

貴重な遺跡?!
このお祭りは私のような
部外者でも参加可能ですか？

この時私は秘密の遺跡をネタに
夫を一躍有名に出来るのではないかと
躍起になっていました

参加できるとも

ただし着替えて
貰らわねばならんがの

うう…
参加出来たは良いものの
裸同然じゃないの

先程まで騒がしかった
村の男達は初めて見る
外部の女性である私の体を
舐めるように静かに見つめていました

辞退しようとも思いましたが
夫の名誉が掛かっている事を思い出し
恥を忍んで裸体を晒す事に
決めました

私のおっぱい
見られてる……
恥ずかしい……



言い忘れておったがの

優勝者の乳房には
『接吻』をする決まりじゃ

えっ?!
ちよちよ
ちよっと待って

突然の言葉に戸惑う私を尻目に
族長の息子は私の乳房に
顔を近づけました

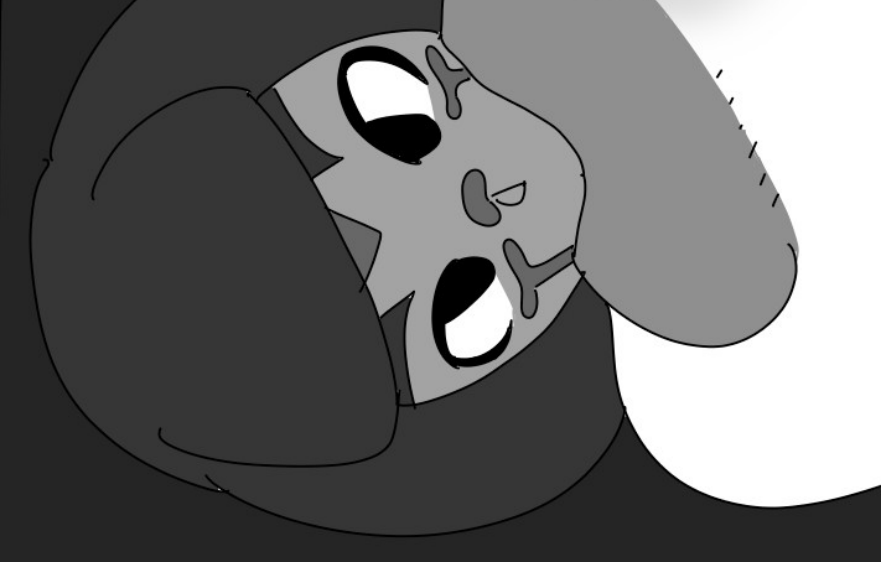


幼い唇は私の乳房を
口いっぱい頬張り
およそ子が母に対する
愛情表現の様な
『接吻』とは呼べぬ程
卑猥な舌使いで
乳首を転がし出しました



やだっ

私ったらはしたない声を
出してしまっなんて



声を押し殺し
快樂の波に耐える
以外私には術が
ありませんでした

主人の前であまりに幼く
男と呼ぶには早い存在に
良い様にされるのは
この上ない恥でした

子供相手に何を言える訳でもなく
相手の部族の文化を受け入れる

嫉妬とも興奮とも取れる
主人の顔は新鮮でした

短い接吻が終わると
蜘蛛の糸のように伸びた唾液が
名残惜しいかの様に私の乳頭と
彼の口に橋を架けていました

視線を下に降ろすと
まるで何事も無かったかの如く
澄ました目が見えました

しかし彼の瞳は
品定めを
続けているような
そんな気配を
感じました

トドリ...

それにしても
恥ずかしいわこの格好

ここにいる間
ずっとコレなの？
変じゃないかしら？

そんな事ないさ
今日の君は一層綺麗だ

この村一番の美女が
僕の妻だなんて
幸せだよ

あら、嬉しい事言ってくれるのね
ご褒美にキスでもあげようかしら

異国の地で二人きり……
久しぶりだわ……
こういうキスって

さっきまでは
後悔してたけれど
悪くないかも

こういう時に限って
押しが強いんだから……

プロポーズの時も
こんな感じだったわね

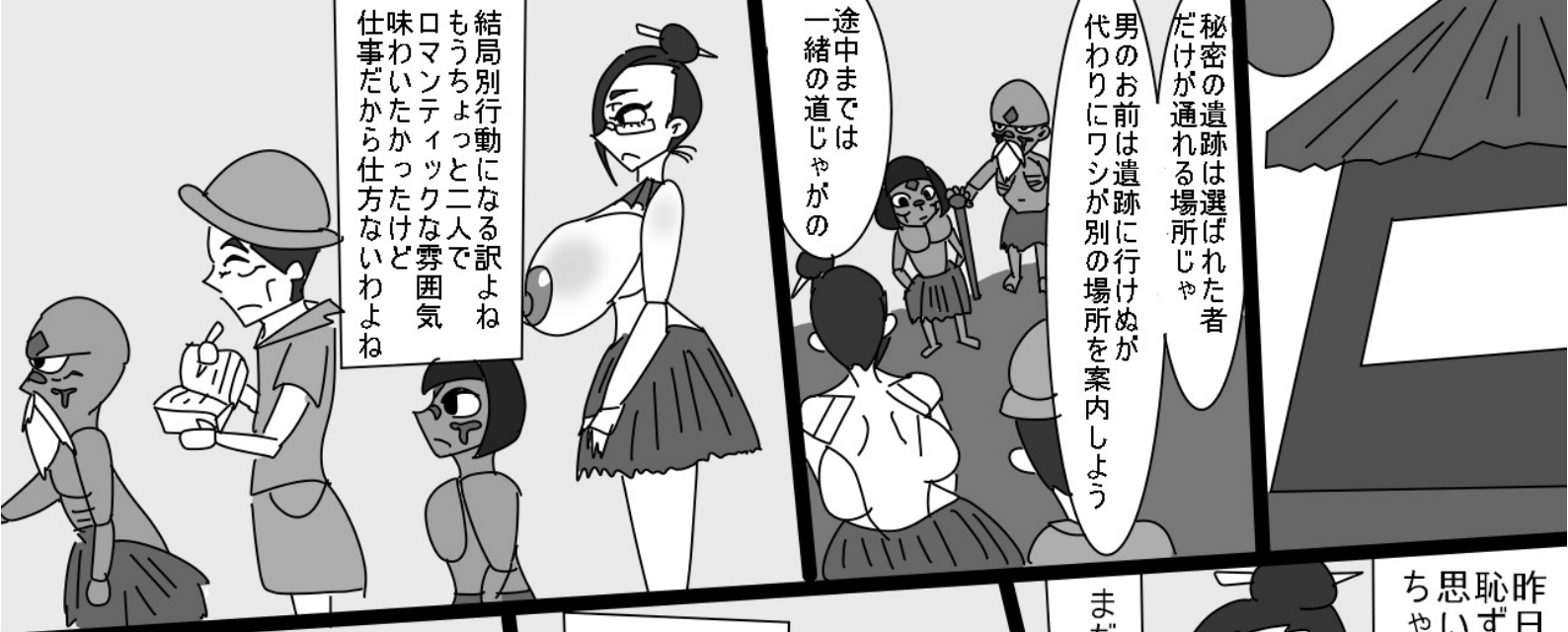
明日は早いから
もう寝た方が良くぞ

すみません！
すぐ寝ます！

言い忘れて
おったがの

やっぱり
ここまで来て
損してるかも

バわ……



秘密の遺跡は選ばれた者
だけが通れる場所じゃ

男のお前は遺跡に行けぬが
代わりにワシが別の場所を案内しよう

途中までは
一緒の道じゃがの

結局別行動になる訳よね
もうちよつと二人で
ロマンティックな雰囲気
味わいたかったけど
仕事だから仕方ないわよね

昨日はこの子に
恥ずかしい
思いさせられ
ちやっただけれど

まだ子供なのよね

早く私も赤ちゃんを産んで
この子みたいなの
可愛い子に育てたいなあ

なーんてね

スッ……

昨日のは偶然いやらしく
なってしまったけれど
成長期だから当然よね
女性の体に興味が出る年頃だもの





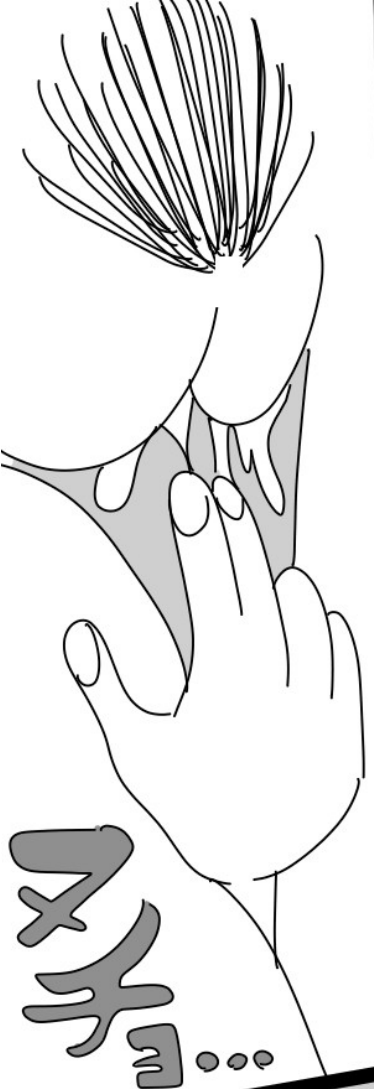
ちよっと何やってるのよ！
夫の後ろでこんな行為するなんて
非常識にも程があるわ！



心の中で必死に抵抗しながら
歯を食いしばり、体を強張りませ
彼の指が満足をするのを待ちながら
耐えに耐えました

この子……♡
上手すぎっ……!!

いつまでする気なの……♡
もうっ……♡



ヌチョ...

指を引き抜くと彼は自分の手に
ベットリとついた私の愛液を
これ見よがしに舐めていました



相手の一連の行動に
私は恐怖と羞恥の感情を
彼に対して抱き
危機感を覚えました

アナタ……
あの、私……

ん？
どうかしたのかい？
顔色が悪いよ？

フラ
フラ……

さて
分かれ道に着いたぞい

遺跡の案内は
丸一日かかるけどもの

ズイ

俸がしっかり案内
するから心配はいらんぞ



アナタ……私ね……

私その子に……

……やっぱり何でもないわ

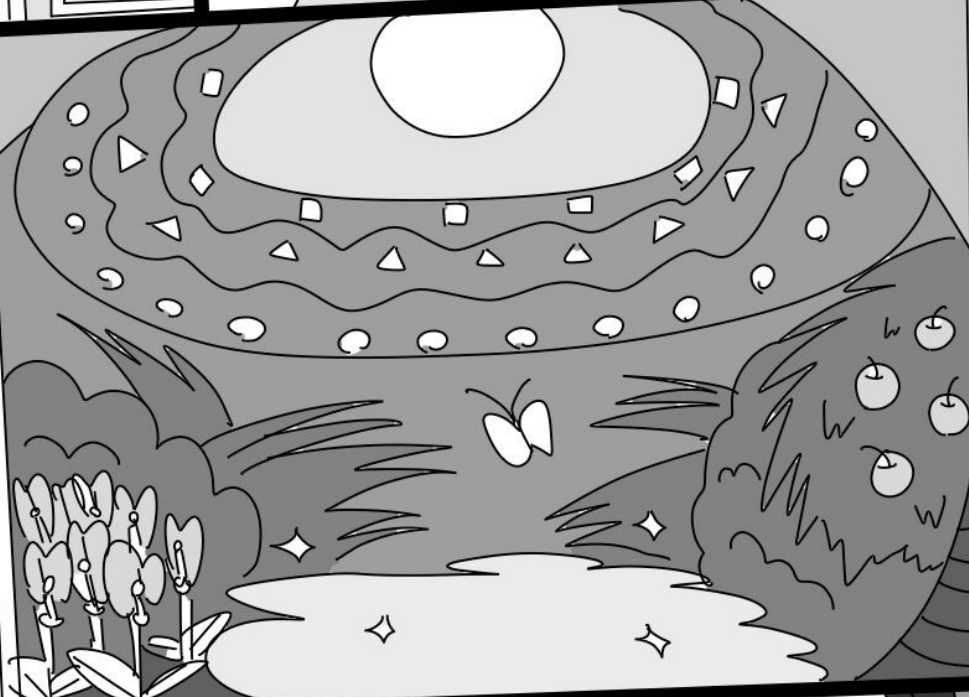
遺跡の事に関してはしっかり記録しておくから安心して

夫の研究のためにも頑張ろういざとなればこの子を叱ればよい様々な言い訳を考えました

この時私は怯えつつも何かに対して期待していたのかもしれない

これが本当の『別れ』道になるとは知らずに軽い気持ちでそれを望んでいたのかもしれない

目的地の遺跡はとても美しいものだった大きなドーム状の遺跡の内部には丸くくり抜いた天井からは太陽が覗き水面に光が反射し内部がよく見えました



遺跡の模様丸々と突った色とりどりの透き通った泉まるで遺跡の中にあるかの様で

まあ！なんて綺麗なのかしら！

こんな素敵な場所が存在するなんて！



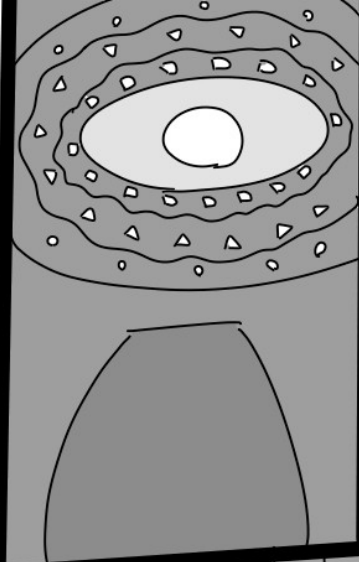
ゴゴゴゴ

ズズ……

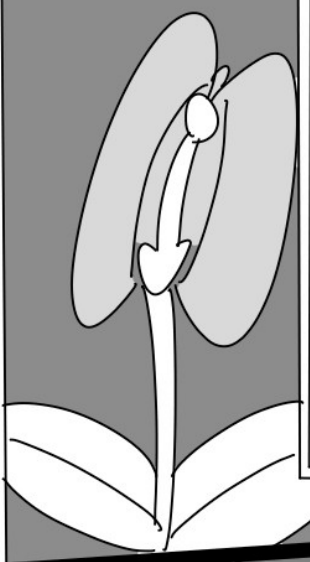
ちよっと！
なんで閉めたのよ！



後にわかった事ですが
この遺跡は『獣の間』
と呼ばれています



扉を閉めた瞬間
風の流れが留まって
遺跡内に咲く特殊な花



『クアメヤシロ花』が出す
フェロモンガスが遺跡内に充満し
結果、獣のような性交に至るため
『獣の間』と呼ばれているのだそうです



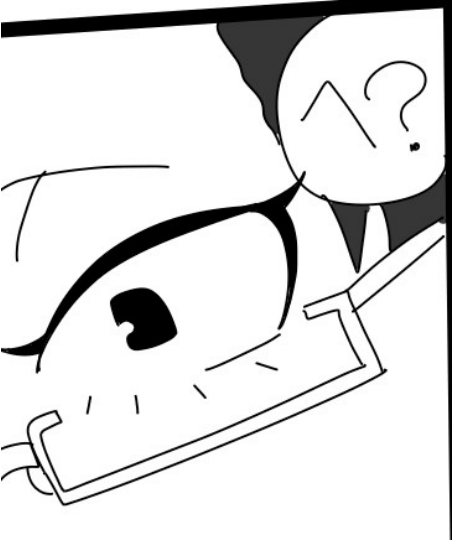
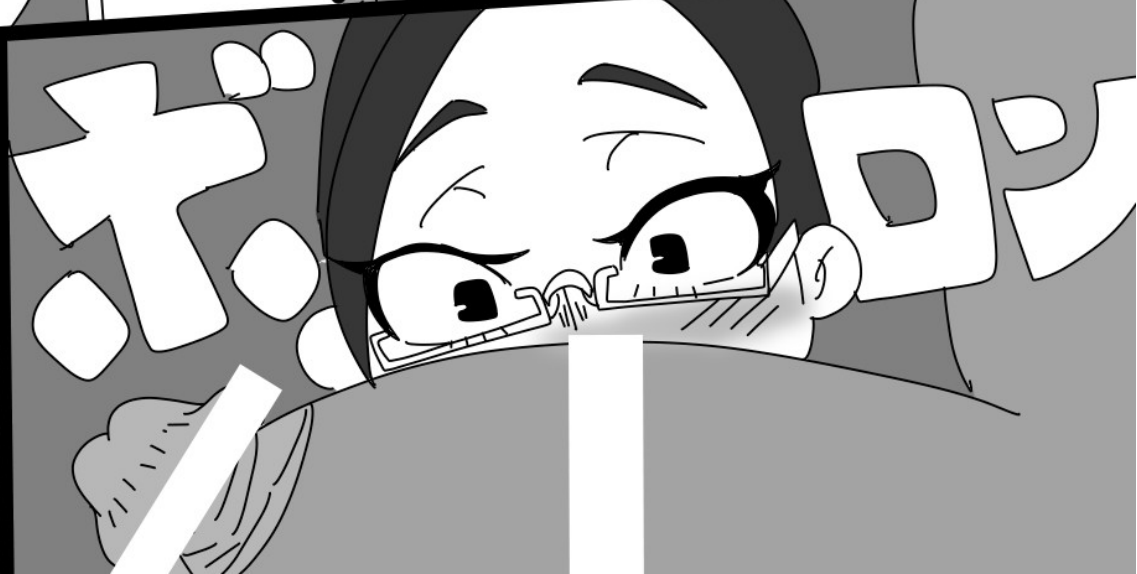
ド
オ
オ

効能としては
発情させるだけではなく

性器を刺激し
感度が過敏になり
思考が低下する
効果があります



なにコレえ
♡



チンポ……？
これチンポよね？

こんな大きなチンポ……
初めて見た……♡

見たことの無いサイズの
男根に困惑し私はそれが何なのか
一瞬わかりませんでした

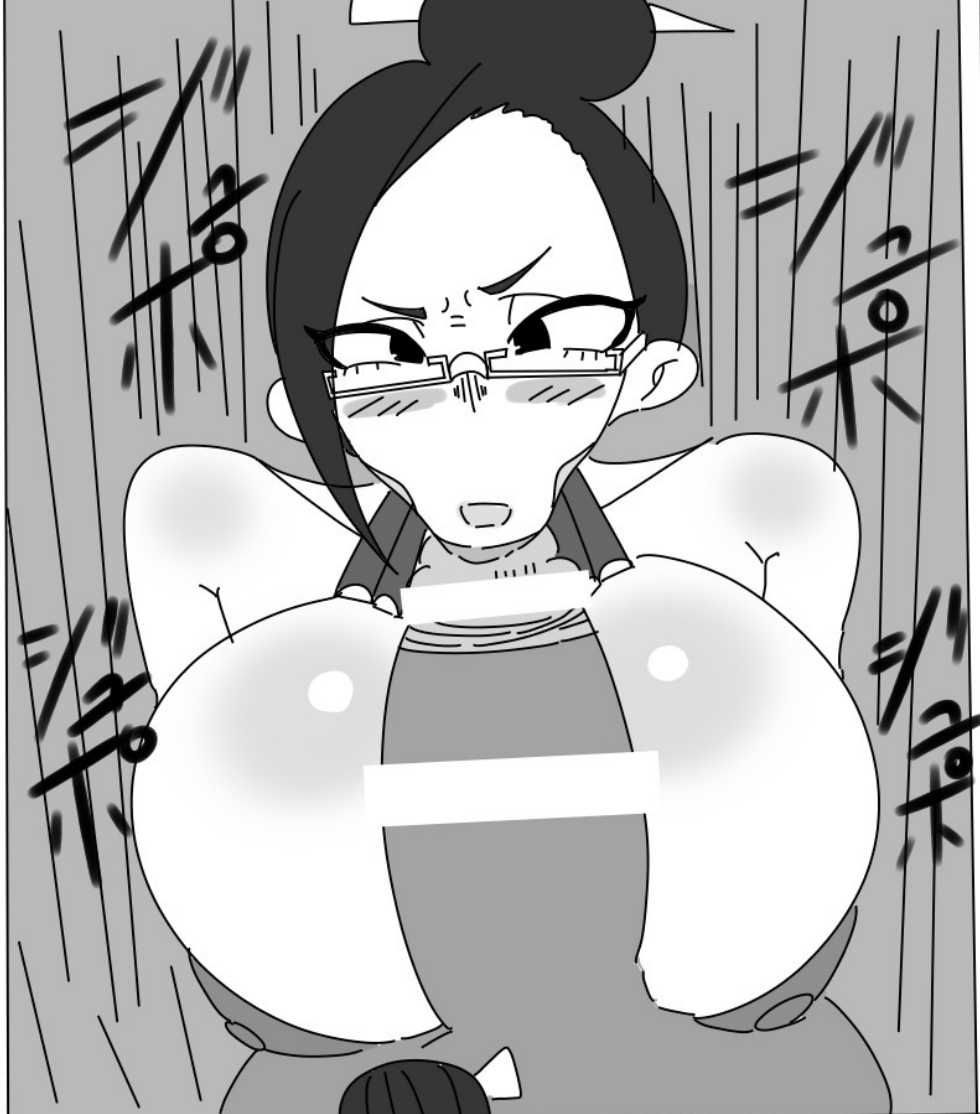
男性器であると認識すると
同時に私の息は荒くなり

夫に対する貞操
観念が吹き飛び

理性が崩壊し
大きなそれを
貪りました

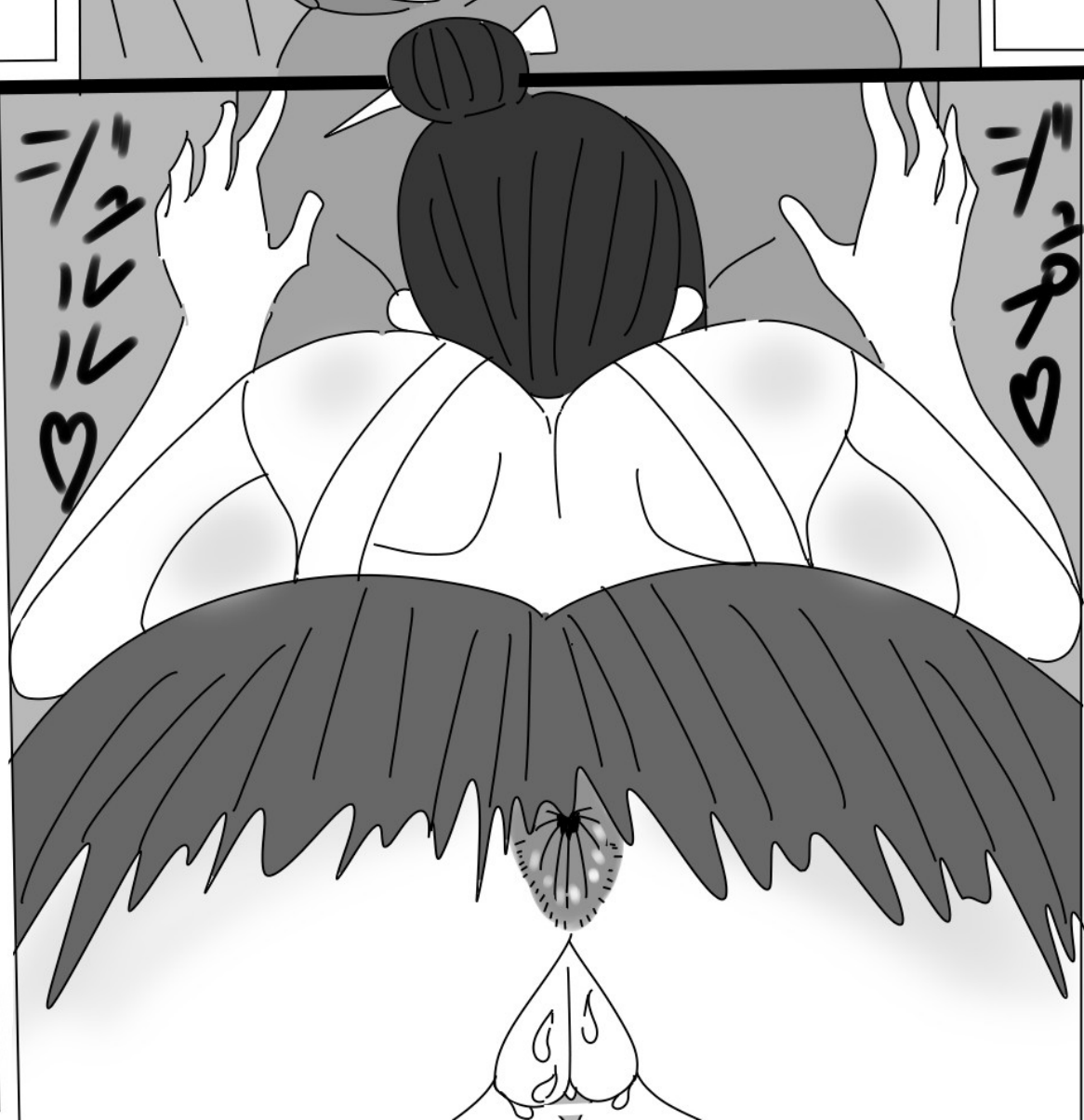
グググ♡

花の催淫効果で淫らになった私は
一心不乱に性器をしゃぶり倒し

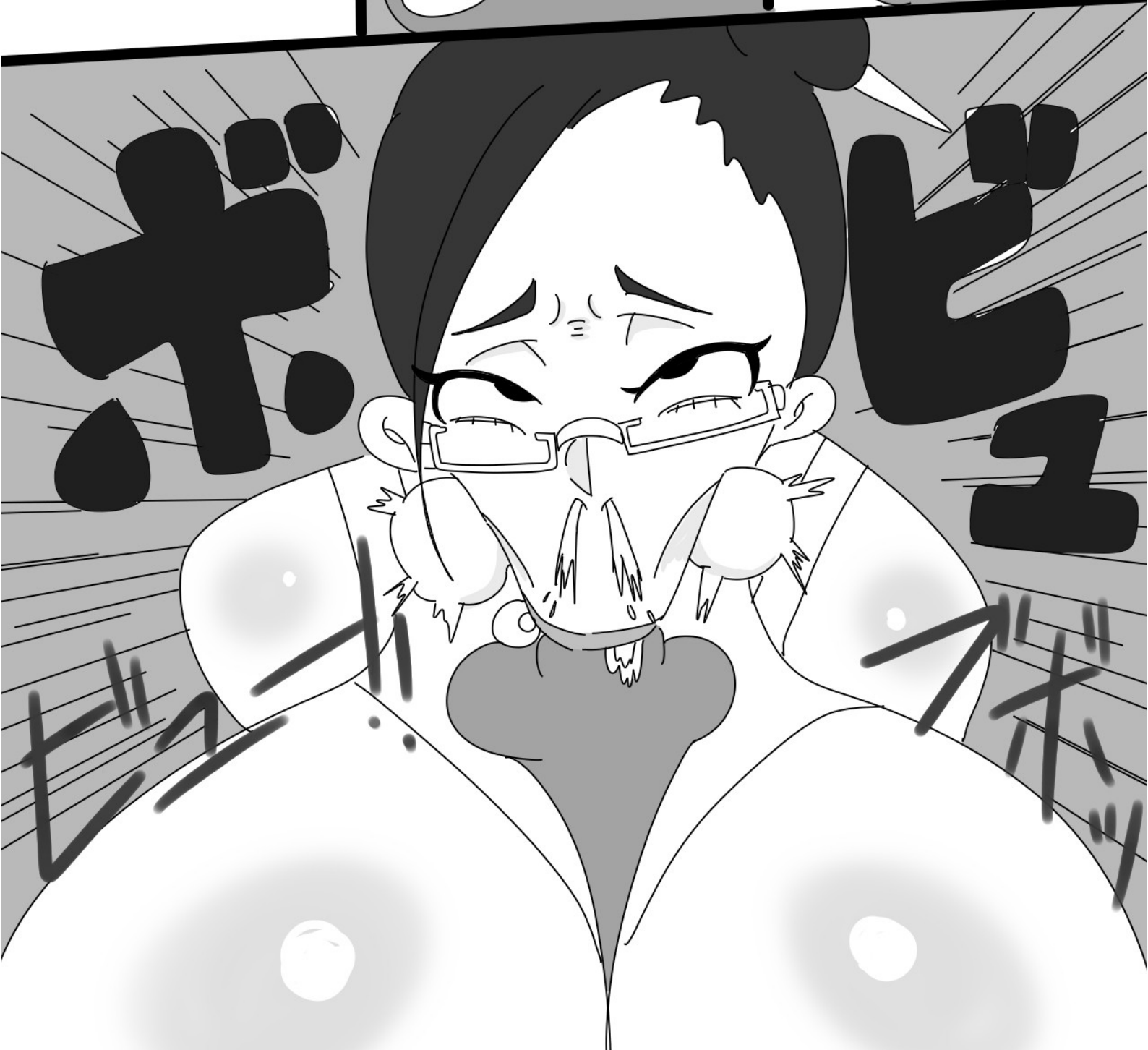
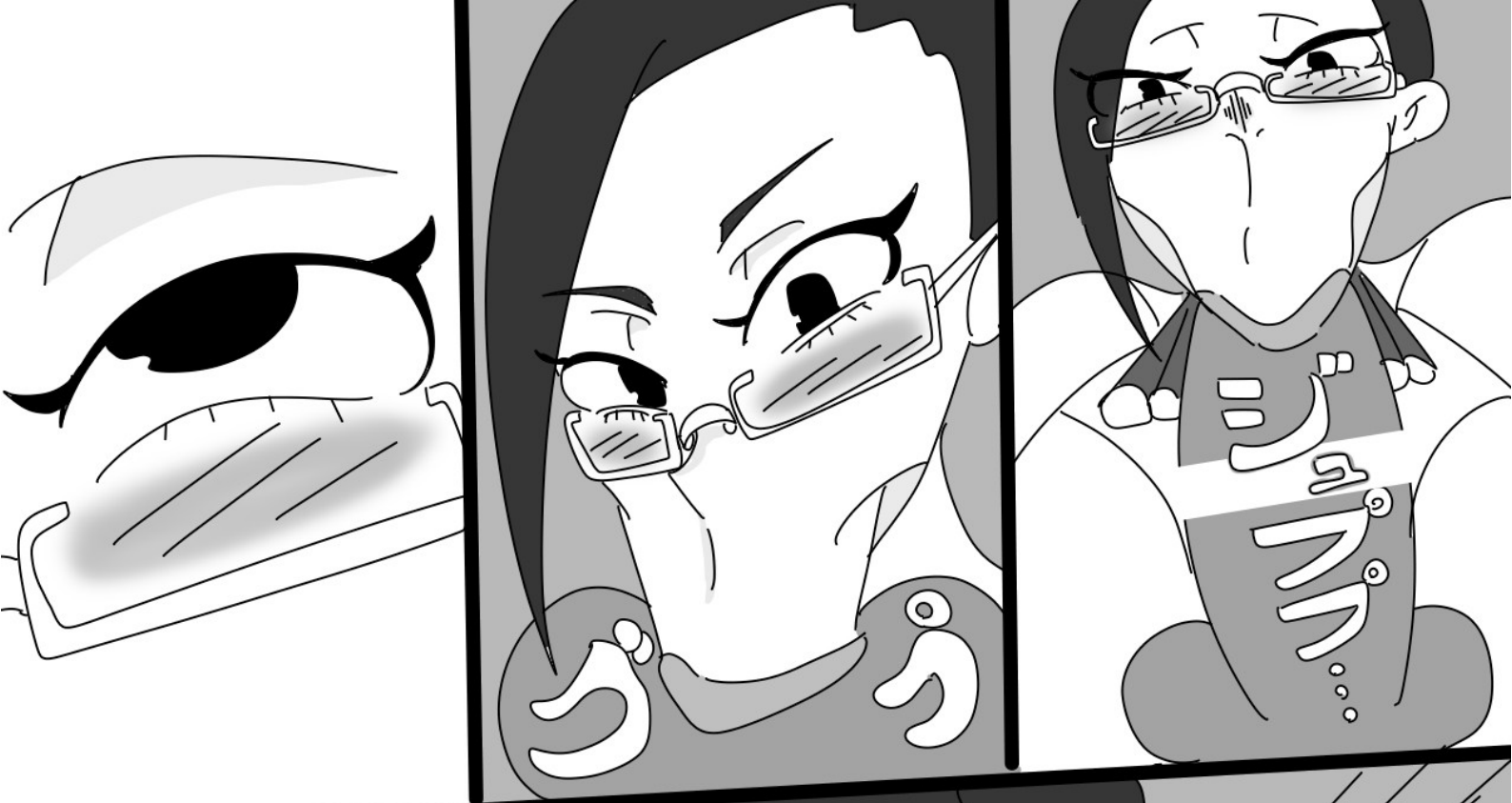


口を窄めて亀頭を嘗め回して
竿と口を一体と化すかの如く
獲物を吸い上げました

両手でしっかりと彼の太ももを掴み
全身全霊を持ってしごき上げ



頭を上下に動かす度
私の秘所から愛液が迸ります



大量の射精を口内に受けて溜まりに溜まった精液を喉に一気に流し込みました

飲み込み切れなかった精子が鼻と口から漏れ出して咽かえる臭いに私は喜びを感じ

これだけの精液を別の場所に出したいという欲が出てきたのです

ジュルル

腰蓑を脱ぎ捨て臀部を男根に寄せて

私は四つん這いの姿勢になりました

ク

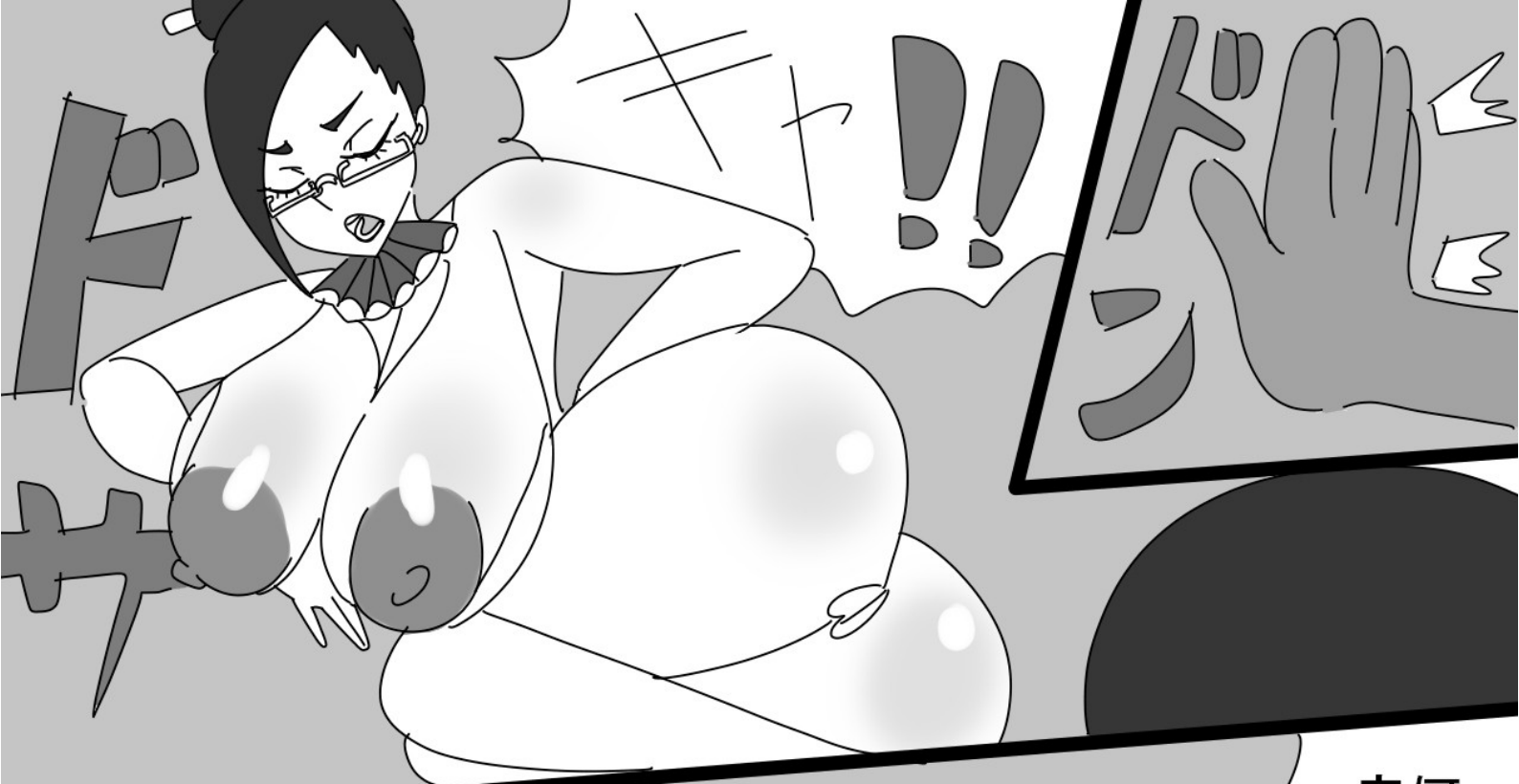
ク、ク、ク

サ

すっぴん

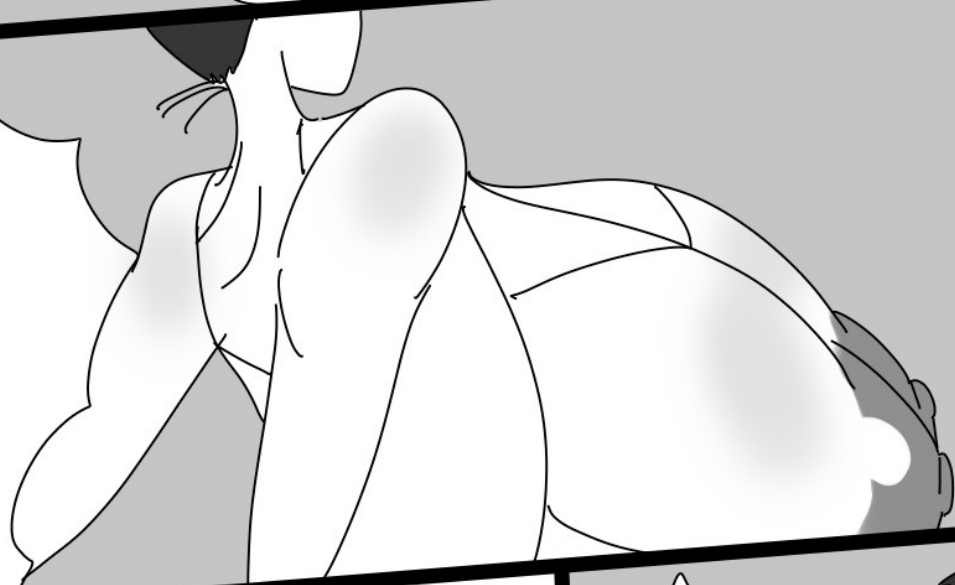
やる気満々に
勃起してるじゃないの♡





何よ！
痛いじゃないの！

誘ってきたのは
そっちでしょ！



散々私の体弄繰り回して
今度は突き放すの？！

私を犯したいんでしょ？

やらせてあげるんだから！
早くそのデカチンポ
寄こしなさいよ！



ズイ

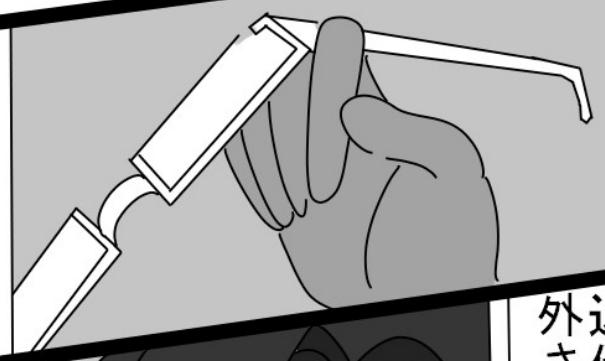
な、何よ

何か文句でも
あるのって
いうの？

彼は腕を
私の顔に
近付け



眼鏡と
髪留めを
外しました

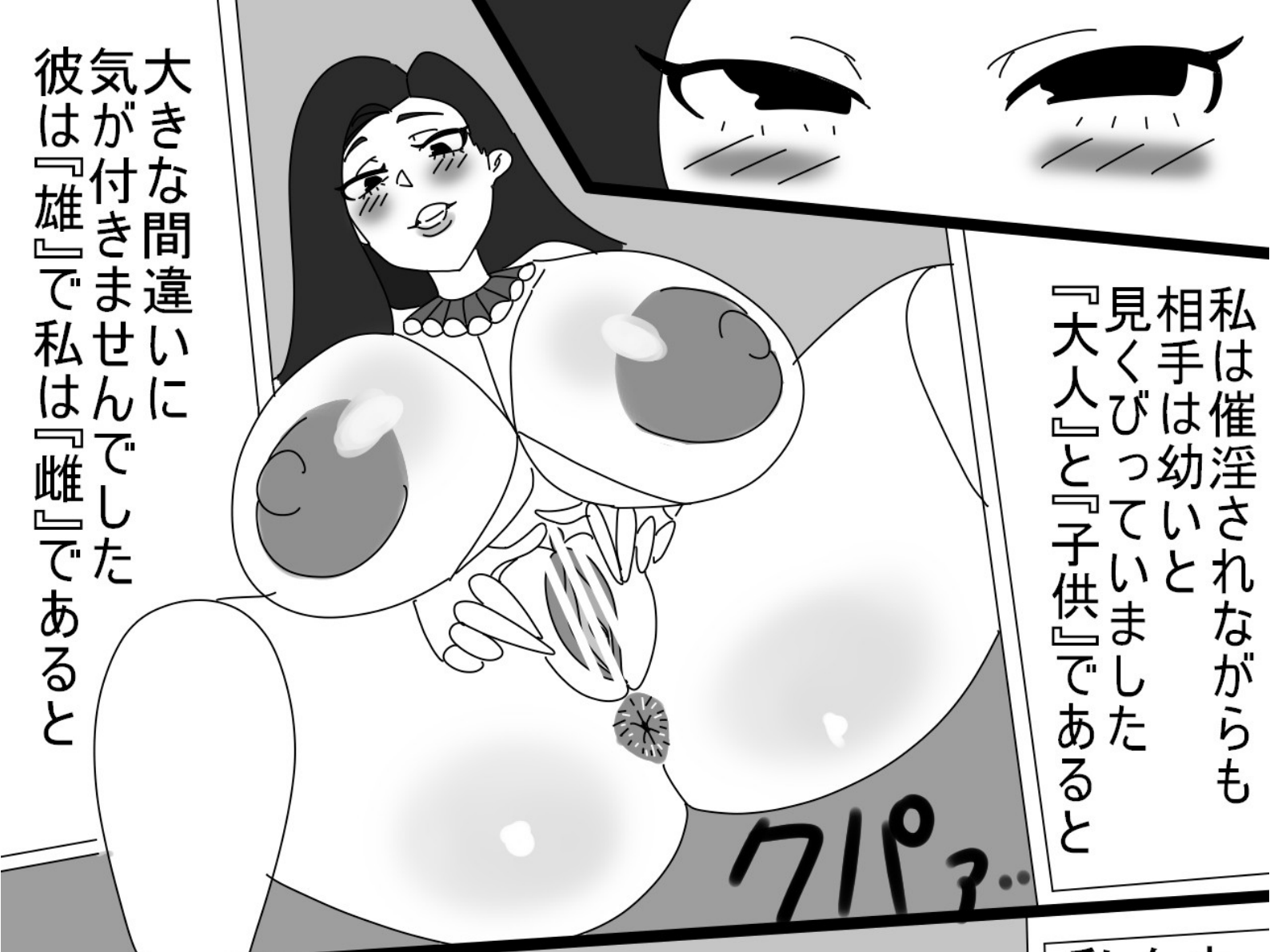


私がかつて
属していた
近代文明の
装飾品が
外されたの
です

それは言葉
ではなく
行動で告げ
られました


『野生に
還れ』と





私は催淫されながらも
相手は幼いと
見くびっていました
『大人』と『子供』であると

大きな間違いに
気が付きませんでした
彼は『雄』で私は『雌』であると



あの乳房の愛撫も
女性器への愛撫も
私に拒否権はありませんでした

服従するべきは
私だったのです

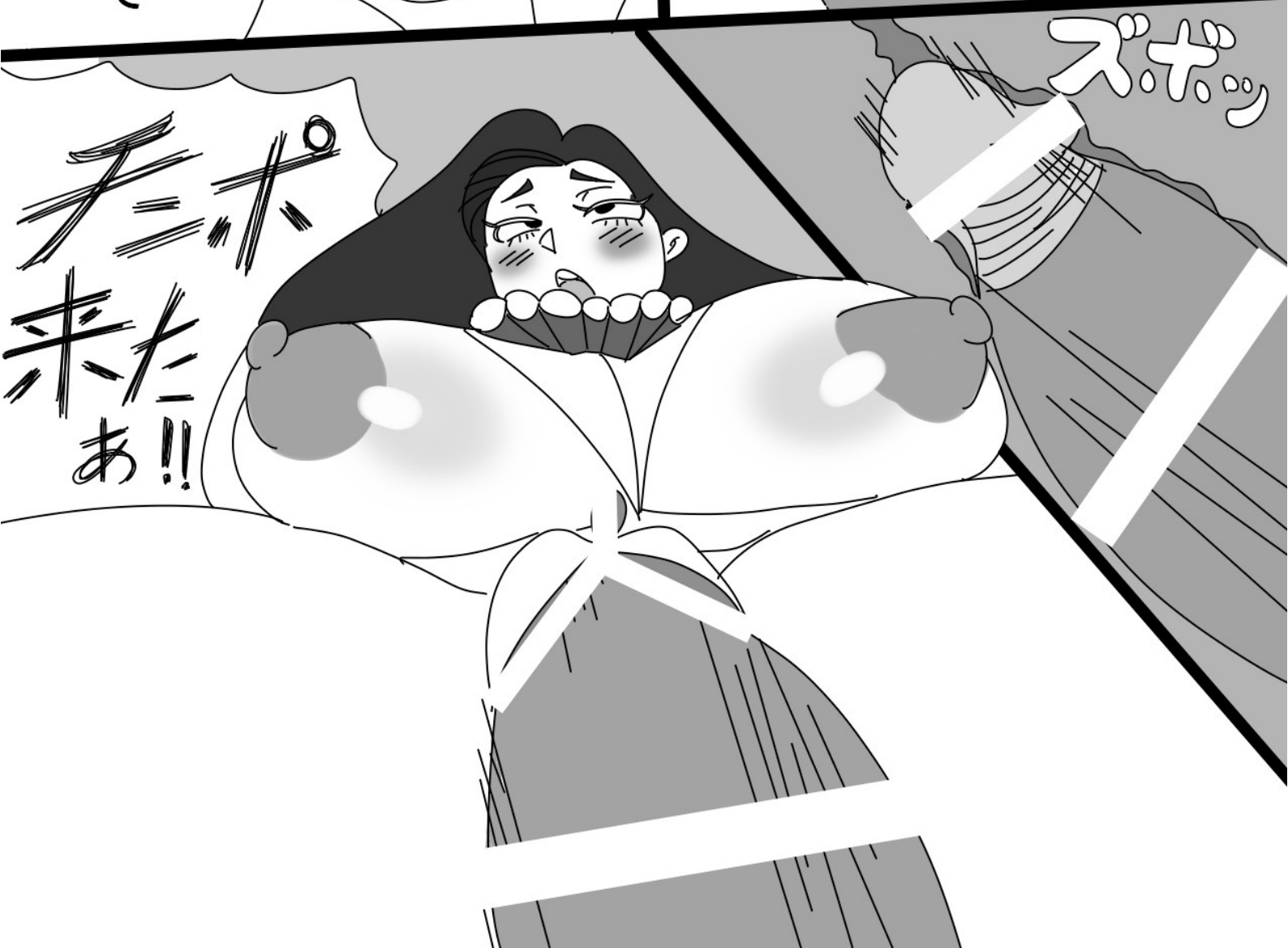


ポロポロに
なるまで犯して
ください♡



チンポが…♡

ああ…来るわ♡



チンポ
来たあ!!

ズバッ

オオオオッ
ンンンッ



今のは獣の雄叫びですか？

ああ、そうじゃ

アイツのために
嫁探しの宴を開いたが
俸の我儘で中々嫁が
決まらなかつたもの
ようやく肩の荷が
下りそうじゃわい

「こゝ」帯に生息してある
『雌』の獣じゃな

発情期の雌が興奮してある

獣かあ

どんな姿を
しているのだろう

そして『獣の間』の
名の由来はもう一つあり

洞窟で反響した喘ぎが獣の如く
村中に響き渡るのだそうです



人生で最大級の快樂が
挿入した瞬間に訪れ

絶頂の余韻に浸る暇も無く
腰を打ち付ける度に
新たな快樂が私を襲います

パンパンパン
パンパンパン

ヒクッ グニョ

乳房を激しく揉み
しだかれながら

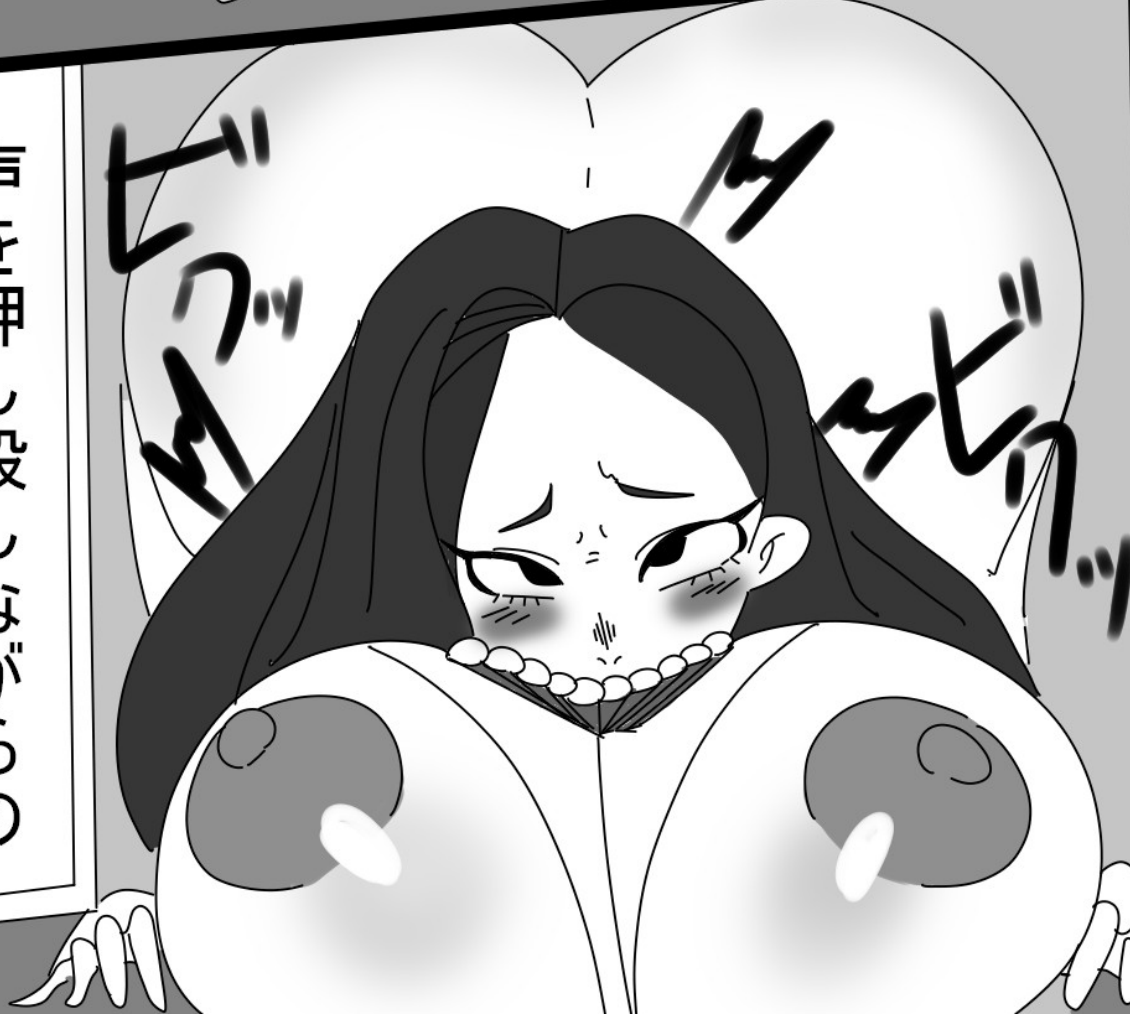
ビクッ
絶頂し

自ら望んだ快樂にも関わらず
絶頂の連続に耐えきれず身を振り
逃げ出そうとしても



彼は私を
掴んで離さず
構うことなく
行為を続けます

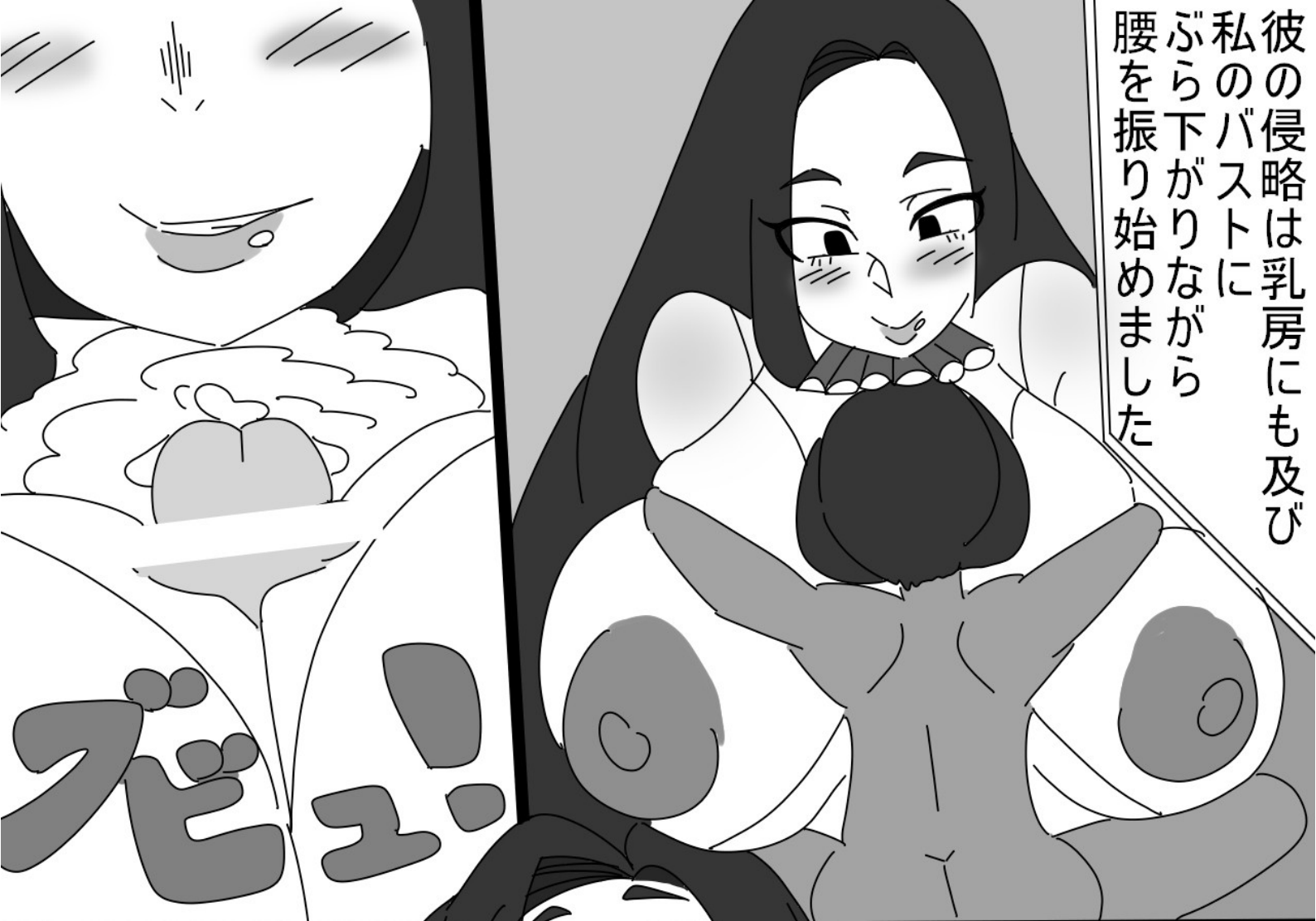
犬のように地に這いながら
己の豊満な乳房に顔を埋め



声を押し殺しながらの

絶頂

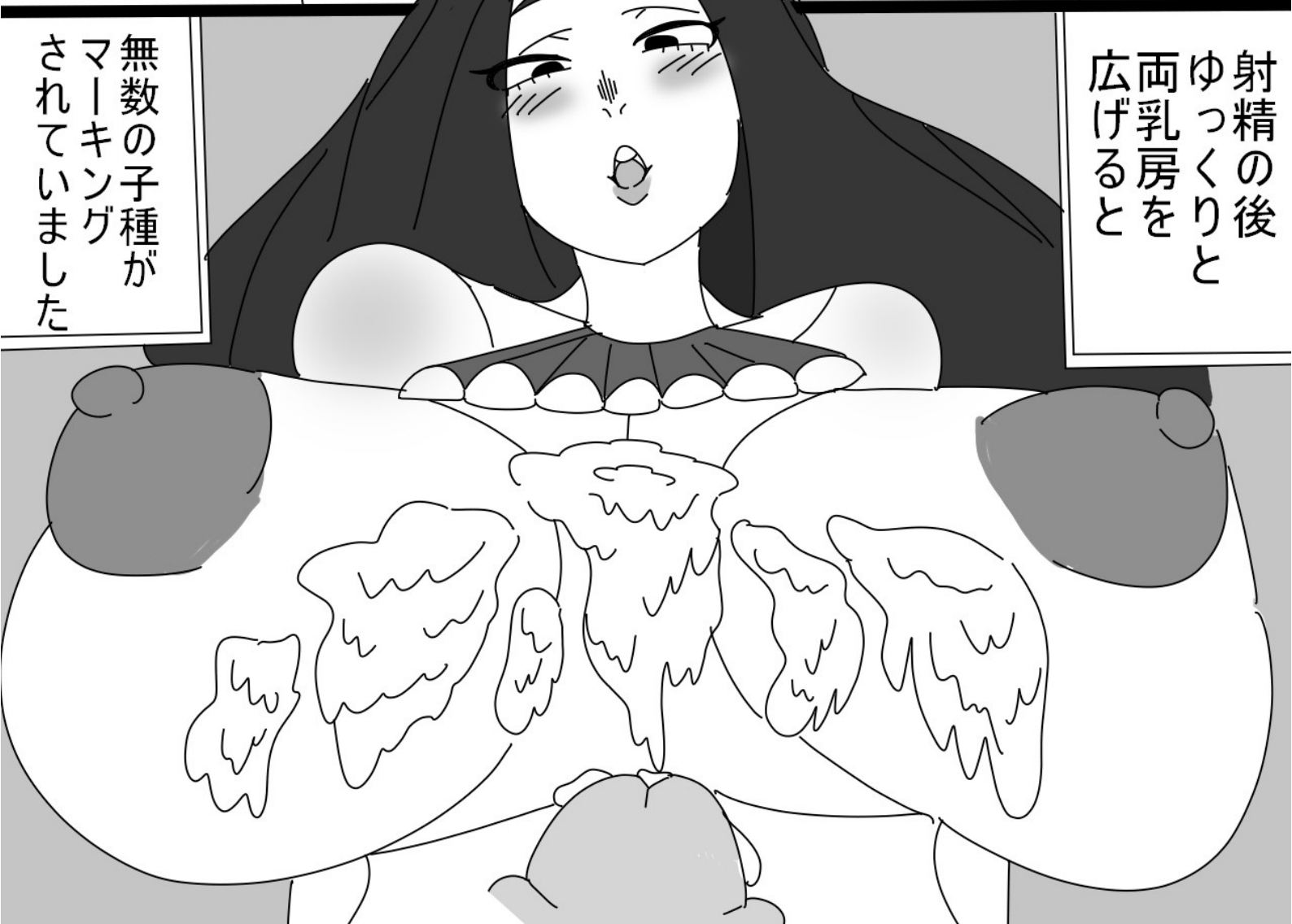
彼の侵略は乳房にも及び
私のバストに
ぶら下がりながら
腰を振り始めました

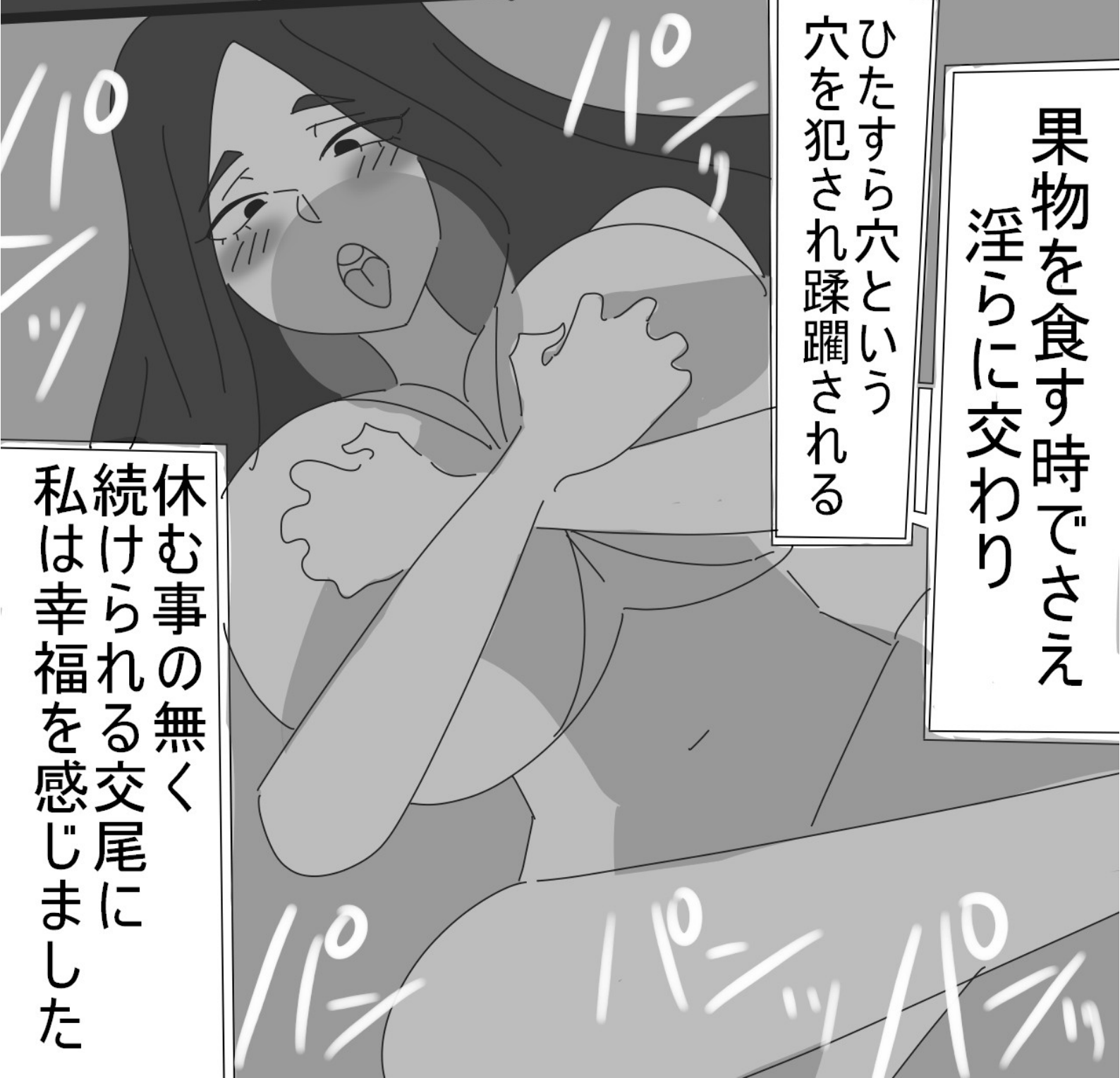


ブビュ!

射精の後
ゆっくりと
両乳房を
広げると

無数の子種が
マーキング
されています





果物を食す時でさえ
淫らに交わり

ひたすら穴という
穴を犯され蹂躪される

休む事の無く
続けられる交尾に
私は幸福を感じました

空が白み始める頃
扉が開くと同時に
かぼそい光がうっすら
遺跡に流れ込みました

ゴゴ
ゴゴ...

大量の精子を全身に浴び
肉の悦びの余韻を味わう
間抜けな顔になった
私の姿がそこにはありました

二十四時間
寝る間を惜しんでの
連続セックスの末

もっしょお...
チーホオ



そのまま惚けている
私をお構いなしに門番は
ズルズルと外へ運び出し
どこかの小屋へと
運び出されました



気が付くと赤土色の土と水を混ぜた物を
複数の男に塗りたくられていました
これにより彼等と同じ肌色になり
仲間として受け入れられるのです

いやあ
大変お世話に
なりました

お陰でいい論文が
書けそうですよ

あっ、そついえば
妻はもう遺跡から
帰ってきていますか？

女の方は向こうの小屋に
帰ってきておるぞ

道子
そこにいるのかい？

あら
貴方も帰ってたのね

いやあ凄い成果が得られたよ
そっちの方はどうだったんだい？

ええ……
私の方も驚きの
数々で凄かったわ……

人生の価値観が
変わる程貴重な経験……

私ね……
この村に残ろうと思うの

まだ学会の発表には
余裕があるしね

村長が許して
くれるのであれば……

違うわ

私だけ

ずっとここに残るの

……？
それはどういう
意味だい？

今までのセックスじゃ
もう満足できないのよ

研究室に籠りきりの
シナシナチンポは用無しなの

これからは女の悦びを教えてくれた
このデカチンポと一生を添い遂げるわ

最後にさようなら
ア・ナ・タ ♡

……訂正するわ
もう貴方は主人
じゃないのだもの



そんな……

嘘だ……

さようなら

租チンさん ♡

